

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100034		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム柳河内		
所在地	福岡市南区柳河内2-6-57		
自己評価作成日	平成22年5月31日	評価結果確定日	平成22年7月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

4年前に開設。地域の方々にも徐々にではあるが、理解して頂ける様になってきている。理念にも掲げているように寛ぎの中でゆったり楽しくその人らしく過ごすことができるホームとして環境的にも整っており、利用者職員は本当の家族のように支えあい、常に寄り添ったケアの提供を心がけている。又、利用者のご家族の思いも大切にしながら、利用者の事を深く知り、理解し、生きがいや役割を一緒に見つけて、その人らしい生活ができ満足感が得られる様に努めている。利用者の社会参加についても利用者ができるだけ、地域の中で生活している事を実感して頂ける様、条件が揃えば職員と一緒に一人一人個別で外出をしており、QOLの向上にも繋がっている。利用者職員との笑顔や笑い声がっぱいのホームです。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社の法人が、市内2つ目のグループホームとして4年前に開設した事業所である。開設以来、自立支援や食事の提供に力を入れている。本年度は研修、教育体制に力を入れており、全職員の外部研修の実績があり、職員の資格取得率も上昇した。災害時対策においても、毎月訓練を実施し、職員毎の訓練実施表を作成、習得度を数値化する等の取組みが見られる。また、運営推進会議時の消防署の立会いによる避難訓練の実施や、水道局員による災害対策や備蓄についての講話、いきいきセンターの成年後見制度の説明等を行い、会議の充実が図られている。今後は地域交流と同時に、認知症の理解を深める活動や、地域高齢者の相談等の活動を検討している。今後の更なる展開が期待できる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年6月18日		

自己評価および外部評価票

ユニット名: Aユニット

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示し、毎朝職員が理念を読み上げる事で、職員全員が理念を確認し、日常の介護の中で、常に意識を持って取り組むように心がけている。	一昨年、職員全員で意見を出し合い、理念の再構築に取り組み、ホーム内に掲示し、朝礼時に唱和している。住み慣れた地域の中で、その人らしくつづぎ、ゆったりと楽しく暮らせる毎日を支援の支柱とし、日常のケアを通じて理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの向いの家の人に話しかけたり、近隣の方がホーム敷地内の通り抜けをしたりしている。また、近隣の保育園や公民館の行事に参加したりしている。また、散歩の時の声かけや挨拶などで交流を図っている。	公民館、地域、ホームの行事を年間行事として位置付け、定期的に保育園やボランティア、地域住民との相互交流の機会を確保している。また、町内の子ども会の廃品回収の参加や、散歩時の挨拶等、日常的なかかわりを通じて親交を深めている。	地域との交流を通じて、認知症やグループホームについての理解を深め、連携を深めていく事は、地域高齢者にとっても大きな安心感になることと思われます。今後の取組みを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の「ふれあい会」に参加し、他の施設の方や地域の方との話し合いの場を設けるなどして、もっとたくさんの人に認知症に関して理解して頂く取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や研修の内容、行事の実施内容や予定などの報告と、いきいきセンターの方による勉強会などを毎回行っている。その後、質問や意見などを伺い、今後の取組みに活かしている。	家族、公民館長、いきいきセンター、民生委員等の参加のもと、2ヵ月ごとに開催している。会議の内容は、ホームの運営状況や行事、研修報告、避難訓練や災害対策等についての協議や質疑応答が行われ、サービスの質の向上に活かされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいきいきセンターの方に参加して頂いたり、生活保護の担当者と介護サービスに関して相談や助言を受けるなどして、協力関係を築けるように取り組んでいる。	運営推進会議時にいきいきセンター職員や市の出前講座による勉強会等を実施している。日常的にはケースワーカーや担当者に、サービスに関する質問や相談等を実施している。また、市主催の研修には可能な限り参加し、連携の機会を確保できるように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、音が出るマットの使用や鈴をつけるなどして、できるだけ施錠せずに済むように取り組んでいる。また、夜間はセンサーマットを使用するなどして、できるだけ身体拘束をしないように取り組んでいる。	施錠やベッド柵に限らず、スピーチロック、行動制限や拘束、抑制について意識し、職員会議等で協議する等、啓発に努めている。ケア全般において、安易に判断する事なくプロセスを重視し、環境整備等も含めて、利用者の自由と安全を守る為の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、スタッフ会議で受講の報告や勉強会を行うなど、職員全員で虐待について学ぶ取り組みがある。また、日頃の業務の中で、虐待が行われないように、常に注意を払いながら取り組んでいる。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修に参加し、スタッフ会議で受講の報告や勉強会を行うなど、職員全員で制度について学ぶ取り組みがある。また、運営推進会議にて、いきいきセンターの方に、成年後見制度について話をさせて頂くなど、行政と連携し制度を理解する取り組みがある。	外部研修への参加と同時に、ホーム内での勉強会を通じて、制度の理解と普及に努めている。本年は運営推進会議時にいきいきセンター職員から、制度の概要と利用手順等についての説明の機会が設けられた。昨年の評価を受けての改善項目である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書や重要説明事項をもとに、時間をとって説明を行っている。また、ホームでの生活の流れなどを詳しく説明し、不安や疑問点がないか確認し、理解や納得が得られるように努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」を設置し、普段言えないような意見も頂いている。また、運営推進会議の際に、家族の方に意見や要望を聞いたり、行事や面会の際に聞くなどして、ホームの運営に反映させている。	苦情相談窓口や意見箱の設置、運営推進会議時等、面会時、利用者別ノート等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議にて、業務や勤務体制などについて意見を聞く場を設けている。また、日頃からスタッフとのコミュニケーションを図り、意見交換を行うなどして、ホームの運営に反映している。	年に2回個人面談を実施し、職員一人ひとりから直接意見を聴く機会を確保している。また、職員会議時に、意見を出す時間を設け、出された提案についてはその場の協議や、管理者並びに法人から回答するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とは常に情報交換を行い、スタッフの日頃の努力や成果などの報告を行っている。また、介護従事者処遇改善交付金の申請をするなど、向上心を持って働けるような環境の整備に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用に関しては、何も制限はしておらず、介護に対する考え方や人柄を重視している。運営委員会を設け、職員一人ひとりが自主的に活動をしている。また、資格の取得や研修への参加を促し、職員のレベルアップを図るための配慮がある。	職員採用については、ヘルパー2級を原則とし、年齢や性別、経験の有無等による制限は設けていない。本人の意欲に加えて、理念への共感、人間性等を重視している。プライベートの充実や資格取得を奨励し、外部研修への参加は、すべて出勤扱いとする等の支援体制がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権といっても幅が広すぎるため、それに関係するプライバシーの保護や身体拘束の問題などについて、いきいきセンターの方に来て頂いて勉強会を行うなどの取り組みを行っている。	高齢者の権利擁護や虐待防止等の研修を実施し、学習する機会を確保している。また、地域で開催される人権研修や外部研修に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を実施する等、幅広いテーマでの人権教育や啓発に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し、参加を募ったり、管理者が参加を促したりしている。毎月のスタッフ会議で報告を行い、職員全体で知識の共有を図るなどしている。また、働きながら研修に参加できるように、シフトの調整も行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同系列のグループホームやデイサービスとの情報交換や、毎月の「ふれあい会」を通じて同業者や地域の方との意見交換や交流を図るなど、サービスの向上に向けた取組みがある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、ご家族よりこれまでの生活歴や既往歴を伺い、次に本人と面会し、どのように思っているのか話を聞くなどして、信頼関係を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に、できる限り不安や要望を聞き出し、それらを受容することで、信頼関係を築けるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今その方に何が必要なのかを第一に考え、ご家族に対して、その方に合ったサービスを提供するなどの対応に努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを大切に、できる事はして頂き、できない事をスタッフがサポートしていく姿勢で取り組んでいる。また、積極的にコミュニケーションをとり、家族のような関係が築けるように努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られない家族に電話し、面会の依頼をしたり、病院受診や行事、外出の際に、家族に協力して頂くなどして、協力関係が築けるように努めている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの保育園や公民館での行事に参加するなどして、馴染みの関係が途切れないように努めている。	美容室や趣味活動等、利用者の趣味や習慣、知人、友人との交流等が継続出来る様に、家族と連携しながら支援している。この過程を経て、法事や墓参り等の事例が見られた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、体操やレクリエーションなどで、全員が共に過ごせるシチュエーション作りに努めている。また、利用者同士のコミュニケーションがとれるように、スタッフが間に入るなどしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となった後も、家族にその後の様子を伺うなど継続的に関わり、相談や支援をするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりの中で、その方の思い(言葉、表情、態度など)を把握し、その人らしい生活ができるように支援している。また、確認が難しい場合は、家族に尋ねるなどして対応している。	センター方式を採用し、利用前の情報収集と日々のかかわりを通じて、利用者一人ひとりの希望や家族の意向の把握に努めている。カンファレンスにて職員全員で情報提供を行い、介護計画書へ反映させ、思いや意向に沿って支援している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで本人や家族にこれまでの生活歴などの聞き取りを行っている。また、面会時に家族から話を聞いたり、日々の会話の中から引き出したりして把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での「気づき」を大切にしており、場合によってはアセスメントを行うなどして、職員全員が現状の把握ができるように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握した上で、家族や主治医とも相談し、その時その方に合った介護計画の作成に努めている。また、スタッフ会議後に職員全員で、モニタリングやカンファレンスを行い、意見交換をしている。	毎月のカンファレンスを実施し、全ての利用者についての情報交換や確認を行い、記録している。モニタリング、評価、介護計画の見直しは、3ヶ月毎に行っている。また、心身状況に変化が生じた際もその都度対応し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテがあり、食事、水分量、排泄、バイタルなど、日々の暮らしの様子や本人の言葉、気づきなどを記録している。職員は業務開始前に確認して申し送りを聴き、情報の共有、ケアに取り組み、介護計画の見直しに反映している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議の際に、家族や地域の方と共に水道局や薬局の方の話を聞いたり、消防署の立ち会いで防火訓練を行ったりしている。また、おむつサービスも利用している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や公民館の行事に参加したり、2ヶ月に1回の訪問理美容やボランティアによるギター演奏などの催し物を計画し、楽しく生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣のクリニックと提携し、月2回の往診を受けているが、家族が変更を希望されれば、納得の得られるかかりつけ医を紹介するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医について、契約時に本人、家族の意向を聞き支援している。協力医の受診、歯科の定期往診のほか、婦人科や眼科等は適宜に受診同行を行っている。また、提携している医師は認知症臨床経験もあり、各利用者の病状ごとに、適切な対応がなされていた。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全身の状態や口腔内をくまなく観察し、異常があれば看護師に相談し、適切な処置がとれるように支援している。24時間いつでも連絡可能な体制である。また、家族への連絡、報告も行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際は、病院関係者との連絡を密に取り、状況の把握ができるように努めている。また、退院後も関係が途切れないように情報交換を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議の際に、ホームでできることを十分に説明し、理解して頂いている。また、介護計画書の説明を行う際に、ターミナルについて家族がどう考えているのか確認を行い、介護計画書にも明記し、チームで共有している。	契約時及びケアプランの更新時には、重度化や終末期についての意向の確認をする機会を設けている。利用者及び家族の意向は、介護計画書にも位置付け、関係者で方針や情報を共有し、支援できるように準備している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回、緊急時対応訓練(ハイムリック法や人工呼吸等)を実施し、すべての職員が万が一に備えて対応できるようにしている。わからないところは看護師に訊くなどして取り組んでいる。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、避難訓練を実施し、すべての職員が避難できる方法を身につけている。(夜間帯を中心に)また、運営推進会議の中で、消防署立ち会いで避難訓練を行い、地域の方や家族にも参加して頂き、避難の方法についての確認や質問する機会を設けた。	毎月の避難訓練、夜間想定訓練等、全職員が、日中時、夜勤時の避難、誘導の実地訓練を実施している。また、運営推進会議に消防署職員を招き、避難訓練の詳細や災害時対策の注意点、参加者からの質疑応答等を実施し、連携体制に取り組んでいる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪問診療の際は、プライバシーの保護のため、居室にて行っている。言葉かけに関しては勉強会を行い、言い換え表を休憩室に貼るなどして常に意識するように心掛けている。	言葉かけやプライバシーの配慮については、各職員が自覚を持って対応している。また、勉強会や個人面談等、随時指導する機会を確保している。個人情報に関する記録等は、契約時に利用者・家族の了承を得た上で事務所にて適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを伝えられる場合は、その思いを否定せずを受容するようにしている。また、思いを伝えられない場合は、表情や態度などから読み取り、こちらから選択肢を提供し、選んで頂けるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操やレクリエーション等は自由参加とし、声かけしても「したくない」と言われれば無理強いせず、その方の意思や希望を尊重している。また、一人ひとりのペースに合ったケアを心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアバンドやヘアアクセサリーで髪を留めたり、お化粧をしたり、お出かけの際はいつもと違う洋服を着てもらったりと、その人らしいおしゃれができるように支援している。また、2ヶ月に1回、訪問理美容を利用している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食事の盛り付けなど、その方の「できること」に応じて職員と一緒にしている。また、利用者と職員と一緒に食事をし、食後の食器洗いも手伝って頂いている。	準備や配膳、下膳、台拭き等を利用者と職員で実施している。食事を一日の重要な活動の一つととらえ、開設以来、3食すべてを利用者と一緒に協力して行っている。調査当日は、美味しそうな匂いが食欲をそそり、利用者のほとんどが、残さずに召し上がっていた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェック表を作り、職員全員が把握できるようにしている。また、食事を野菜中心にしてバランスを考えたり、うなぎやレバーなど栄養価の高い物を摂り入れたりしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、一人ひとりの力に応じて見守り、介助を行っている。また、訪問歯科を利用し、口腔内のケアやチェックを行い、職員へ指導して頂いている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導するなどして、排泄の失敗を減らせるように取り組んでいる。また、失禁が減ってきた利用者については、普通のパンツに変更できないか検討するなどしている。	利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け、個別に支援している。この過程を経て、オムツからポータブルトイレへの誘導等の成果事例も見受けられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフ会議の中で、便秘の原因や及ぼす影響を勉強し、緩下剤に頼るだけでなく、バナナやさつまいもなど、食物繊維を多く含む食べ物や飲み物を提供し、できるだけ自然排便を促すように取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回入浴ができるように支援している。入浴拒否がある場合は無理強いせず、他の日に変更するなど、その方の希望やタイミングに合わせた入浴の支援を行っている。	入浴日は特に設けていない。毎日の入浴も可能であるが、実際は週2～3回の利用が多い。あまり入浴を好まれない方には、タイミングを見計らった声かけやシャワー浴、足浴、清拭等を行い、定期的に清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、必要に応じて昼寝をして頂いたり、ソファで休んで頂くなどして、夜間良眠できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法など理解はしている。誤飲や飲み忘れのないように、毎回日付と氏名を声に出している。緩下剤は一覧表を作り確認できるようにしている。また、「いつもと違う」等症状に変化があった時は、看護師や主治医に連絡し、連携をとっている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃のお手伝いや、レクリエーションでその方の得意な事を取り入れたり、散歩に行くなど、一人ひとりの役割や楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や野球観戦など、利用者が「行きたい」と言われる希望に沿って計画し、家族と協力して出かけられるように支援している。また、個別レクリエーションでは、職員と1対1で買い物や食事などに出かけられるように支援している。	花見や行楽など定期的に計画立てての外出のほかに、日常的な散歩や買い物かねたドライブ等、可能なかぎり実施している。また、毎週一度は個別レクリエーションの時間をもち、利用者の希望があれば個別で職員と外出している。	ホーム全員で外出する機会の確保は、利用者、家族、職員同士の一体感と生活意欲を高める有効な手段であると思われる。家族、法人、地域等の社会資源を活かし、実現にむけての取組みを期待します。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持する事は難しいが、職員と一緒に買い物に行って、欲しい物を買ったりできるように支援している。そのためのお小遣いも預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはもちろん、お出かけした写真付きの絵はがきを作り、利用者に宛名書きをしてもらい家族に送付している。また、本人が「電話をしたい」といわれた時は、電話でのやりとりができるように支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランター、リビングには生花を飾り、壁面には季節感を取り入れた飾り付けをしている。また、台所で調理をし、家庭的な香りがしている。	程良く採光されており、全体的に明るく、優しい感じの共用スペースになっている。季節感を意識的に取り込んだ装飾や、淡い色調の家具や壁紙等、居心地良く過ごせるように工夫している。リビングにはソファがおり、自然とくつろげる空間となっている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関横やリビングにソファを設置し、いつでも自由に過ごせる雰囲気がある。窓の外を眺めたり、談話したりと一人ひとりが思い思いに過ごして頂けるように工夫をしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具やTVなどを持ち込み、これまで通りに使用できるようにしている。また、家族の写真や手紙を居室に貼るなどの工夫をしている。	利用前に部屋を見学し、利用者、家族が相談し、衣類や仏壇、寝具、調度品等を持参している。部屋はフローリングで、布団やベッド、家具の配置等も利用者の心身状況や生活習慣を考慮しながら、安全かつ快適に過ごせるように工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「何が危険なのか」職員で話し合い、転倒など事故のない環境作りを行い、一人ひとりの力を活かした生活が送れるように工夫している。利用者が自由に移動できるように、居室や廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			